令和７年度第１回三条市教育事務点検評価委員会会議録

１　開会宣言　　令和７年７月７日（月）　午後２時 30 分

２　場　　所　　三条市役所栄庁舎３階中会議室

３　出 席 者　　雲尾委員長、阿部委員、佐藤委員

４　説明のための出席者

髙橋教育長、平岡教育部長、野水教育総務課長、小林子育て支援課長、
相田学校教育課長、樋口教育センター長、佐藤教育総務課長補佐、
井上教育総務課庶務係長

５　傍 聴 人　　なし

６　会議次第

１ 開会

２ 委嘱状の交付

３ 教育長挨拶

４ 自己紹介

５ 委員長の互選

６ 職務代理者の指名

７ 議事

(1)　教育に関する事務の点検及び評価について

(2)　令和６年度教育に関する事務の事後評価シートについて

８ 次回教育事務点検評価委員会の日程について

９ 閉会

７　会議の経過及び結果

５ 委員長の互選

（野水教育総務課長）

お手元に配付をさせていただきましたこちらの評価委員会の要綱第５条に書いてございますように、この委員会には委員長を置くということで選出いただくのですが、決め方は委員の皆さんから互選ということになっております。

適任の方がおいでになられましたら御推薦をお願いしたいと存じますが、いかがでございましょうか。

（阿部委員）

事務局のほうで何か腹案をお持ちだったら聞かせていただきたいです。

（野水教育総務課長）

今ほど事務局のほうから案をという御発言がございましたので、事務局としての考えをお話をさせていただきたいと存じます。

事務局といたしましては、長年三条市が取り組んでおります小中一貫教育の推進に御助言をいただき、またこの委員会でも委員長を務めていただいておりました雲尾委員にお願いしてはいかがかと考えております。

～　「異議なし」の声あり　～

（野水教育総務課長）

ありがとうございます。今ほど異議なしとのお声がございましたが、それでは委員長として雲尾委員を選出することに御異議ございませんでしたら、拍手で御承認をいただければと思います。

～　拍手あり　～

（野水教育総務課長）

では、御異議がありませんので、委員長は雲尾委員にお願いすることと決定いたしました。

それでは、雲尾委員は委員長席のほうへ御移動いただきまして、就任の御挨拶を一言お願いいたします。

（雲尾委員長）

では、ただいま互選で委員長となりました雲尾周でございます。評価といいますと、今学習指導要領の評価、次の学習指導要領で学びに向かう主体性を評価から外すという、何かはしごを外された感のある案が出ているようでびっくりしているところでございます。ますます学校が塾へ移行化してしまうんではないか。難しくても、そこをやるのが学校や教職員の仕事ではないかということも思うのですが、国がどうなるか分かりませんけれども、どうあろうと、三条市は小中一貫教育を進め、確実に子どもを育てていくためには、教育委員会の義務をしっかりとなされることも大事なこととなりますので、そのためにも２回の委員会となりますが、委員の皆様から、忌憚のない御意見をお願いいたします。

（野水教育総務課長）

それでは、これ以降の進行につきましては雲尾委員長にお願いをいたします。

６　職務代理者の指名

（雲尾委員長）

よろしくお願いいたします。

次第の６番、職務代理者の指名です。要綱第５条第３項に、委員長があらかじめ指名することとなっておりますので、職務代理者として阿部委員を指名いたします。よろしくお

願いいたします。

〔阿部委員同意により、阿部委員に決定〕

---

7 議事

(1) 教育に関する事務の点検及び評価について

・野水教育総務課長（資料により説明）

(雲尾委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして御質問、御発言がございましたらお願いいたします。よろしいですね。

---

(2) 令和６年度教育に関する事務の事後評価シートについて

・野水教育総務課長（資料により説明）

・学校教育課所管分について、樋口教育センター長、相田学校教育課長（資料により説明）

(雲尾委員長)

ありがとうございました。では、学校教育課所管分につきまして、１つずつ確認してまいりたいと思います。

まず、１ページです。１―（１）、これにつきまして御質問等ありましたらお願いいたします。

(阿部委員)

ＮＲＴの数値は年々下降ぎみということで評価はＣということになっているんですけれども、教育委員会としては数値が下がっている大きな要因というのをどのように分析をしていらっしゃるのかお聞かせください。

また、教育委員会として研修や助言をしているわけですけれども、助言、研修を行ったことが現場にどのような効果が現れているのか、成果が上がっているのかというあたりについて、把握できているところで結構ですので、教えていただきたいと思います。

以上です。

(樋口教育センター長)

分析に関しては様々な要因がありまして、端的にこれと絞ることは難しいところもあります。

ただ、下降傾向がコロナ禍明けに非常に顕著になっておりまして、小中一貫教育で関わりを大事にしていたところ、そういったものをコロナ禍で少し制限するような形があったので、もしかしたらそういう影響もこういったところに現れているのかなというところがあります。

また、この成果指標には表しておりませんが、アンダーアチーバーの増加傾向があります。そういったところでは、個々の子どもたちの困り感にしっかりと正対していく指導法を我々のほうでも更に指導、助言していく必要があるかなと考えております。

教育委員会の助言が生きたというところでありまして、オーダーメイド研修も行っておりますし、そのほかステップ研修というものも行っております。ステップ研修を三条市で受けて他市に異動した職員がいたのですが、その職員が非常に授業づくりがうまいとか、子どもへの声かけというところで褒められたということがあって、ステップ研修が生きたということが成果かなと思っております。

以上です。

(阿部委員)

今御説明いただきまして、ありがとうございました。学校の現場の様子を見ると、非常に若手が多くなっている現状があるんだろうなというふうに思っています。今ほど御説明をいただいたとおり、ステップ研修等、非常に有効な手立てなんだろうなと思っているんですが、そうやって一人一人の授業づくりというんでしょうか、授業の質を上げていくことというのは非常に大切だろうなというふうに考えていますし、例えば教育委員会でもそういうふうに力を入れていらっしゃると思いますので、そういうのは続けていただけるといいのかなと思います。

それに付随して、読み書きのアプリだとか、ICT を使ったいろいろな授業だとかということが次から次へと入ってくるわけなんですけれども、その使い方についても、ただ使うだけじゃなくて、本筋の授業とうまくマッチしたような、そういう効率のいい使い方ができると、授業をしている先生方にとっては非常にありがたいのではないかなと思うんで、そういうあたりをまた教育委員会のほうで具体的な好事例を示していただけると、現場は助かるんではないかなと思います。意見であります。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

まず、令和６年度中に実施した主な取組が４つ挙がっていますけども、最後のものは「の導入」で語尾等合っているのですけれども、あと上の３つは全部「を」になっています。これ全部「の」ですよね。「を実施」、「を指導」、「を作成」、これ全部「の」に直していただきたいということと。

次の評価のところの中の６年度が半角の文字、数字は全角にするという原則を守っていただきたいということと。

さっき説明の中で、今後の方向性のところで疑問に思っていたことが説明の中で分かっ

た部分もあるんですけども、今後の方向性の１行目に「今年度導入したAIドリルや認知特性に応じた読み書きアプリ、授業支援アプリなどのICT活用状況を把握し」といったときに、今年度というのはそもそも何年度なのかということと、導入したものは１つなのか、２つなのか、３つなのかが文章から読み取れないので、これをお伺いしたいなと思っていたのですが、今年度というのはまず令和６年度でよろしいですね。

（樋口教育センター長）

はい。

（雲尾委員長）

令和６年度に導入したAIドリル、これが令和６年度ですよね。

（樋口教育センター長）

はい。

（雲尾委員長）

あとの読み書きアプリと授業支援アプリはどうなりますか。

（樋口教育センター長）

読み書きアプリも６年度に導入させていただきましたし、授業支援アプリも６年度に正式導入させていただきました。

（雲尾委員長）

ということは、令和６年度に導入したこの３つに全部かかっているということですね。

（樋口教育センター長）

授業支援アプリというところでは、そちらにAIドリルというものがセットになっているというような状況であります。

（雲尾委員長）

そうすると、AIドリルだけ先に書いているけど、授業支援アプリの中にAIドリルが含まれているということですか。

（樋口教育センター長）

そうなります。

（雲尾委員長）

余計説明的に分からなくなりますね、そうすると。

そうすると、AIドリルを含む授業支援アプリということですか。

（樋口教育センター長）

正式にはそうなります。

（雲尾委員長）

じゃ、「令和６年度に導入したAIドリルを含む授業支援アプリ及び認知特性に応じた読

み書きアプリ」がまずあって、「をはじめとするICT活用状況を把握し」ということですか。

（樋口教育センター長）

そうなります。ありがとうございます。

（雲尾委員長）

分かりました。

あと、これは全体工程の何か最終報告書の中で、野水さんのほうで解決してもらわなくちゃならないかどうか分からないんですけども、ここに小学校４から６年生、全中学校１から３年生みたいな言葉とか、次のページにも小学校６年生、中学校３年生という言葉があるんですけども、それは大崎学園の７から９年生も含んでいるということですね。

（樋口教育センター長）

そうなります。

（雲尾委員長）

ですから、そういった中で小学生、中学生とかといった用語で全部書かれていることについては、毎回のページ、全部ことわると大変なので、じゃ統一して、一番最初のあたりでそこは説明していただくということで、それぞれの資料の中ではこのままでよろしいですか。

（野水教育総務課長）

御指摘の点につきましては、全体を通しての定義上、必要な御説明は最初にさせていただいた中で、一旦はそれに基づいて読み取りをいただけるような注記を最終報告書のまとめの段階で付したいと思います。

（雲尾委員長）

分かりました。では、それについては、最初に解決していただくということで、このシートの中ではそのように取って進めさせていただきます。

そのほかよろしいでしょうか、これにつきましては。

（阿部委員）

今後の方向性として、ドリルだとかアプリだとかということが挙げられているんですが、これに力を入れていくということで書かれているのか、何が言いたいかというと、授業づくりを大事にしてほしいなという、そういうことが書かれていないので、その辺りは今後の方向性として、これだけの記述でいいのかどうかということなんですけども、すみません、まとまりません。

（樋口教育センター長）

ありがとうございます。御指摘の点、そのとおりだと思います。令和６年度に関しては、

認知特性に応じた読み書きアプリ、そしてAIドリルを含む授業支援アプリを導入しましたので、そのことについてここでは強調して記載しているところであります。

でも、御指摘のとおり、それだけで子どもたちの学力向上とか授業の質の向上というところにはいかないと思いますので、実施したオーダーメイド研修や授業スタンダード研修などにも力を入れて取り組んでいく所存であります。

(雲尾委員長)

よろしいですか。

(阿部委員)

はい。

(雲尾委員長)

そのほかよろしいですね。

では、続きまして、２ページの１―（２）「地域に根差した教育の展開」につきまして、御発言ある方はお願いいたします。

(阿部委員)

今後の方向性のところで、キャリア教育編というカリキュラムの活用を図っていくということが書かれているんですけども、具体的にこれどのようなものかお聞かせください。

(樋口教育センター長)

小中一貫教育カリキュラムというものがありまして、国語、算数、理科とか社会とか、そういった教科のものはこれまでありました。その点に関して９年間を見通した指導ができるように、各学年でそれぞれの教科でカリキュラムをつくっていただいております。

また、指導の構想としまして、うちの学園の良さとか、または課題ということを明記して、それに対してこういう手だてを打っていこうという指導の構造というものも作っておりました。その点に関してキャリア教育編というものを各学園で作成していただいて、指導の構想、そしてカリキュラムというような形で９年間を見通して子どもたちにキャリア教育を充実させていくというものであります。

(阿部委員)

キャリア教育編というのを別に作られたということなんですか。

(樋口教育センター長)

そうなります。

(雲尾委員長)

そのほかいかがでございましょうか。今後の方向性の１行目、「活用を引き続き図っていく」ですか。１行目の最後のところに「引く続き」になっていますが、「引き続き」でお願いします。

（樋口教育センター長）

失礼いたしました。

（雲尾委員長）

そのほかよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、続きまして、３ページ、１―（３）「部活動の段階的な地域移行」につきましてお願いいたします。

ここは昨年度という言葉が３回出てくるんですけども、昨年度というと、いる時点から見て昨年度になるので、報告書を読んだときはその年度には今存在していないので、そうすると、やっぱりこういうのは前年度と書くほうが、離れた位置から見て、その年の前の年を見ることなので、昨年度ではなくて前年度という表現のほうが正しいのかなと思うのですが、修正いただきたいと思います。

（阿部委員）

現在もやっていらっしゃるんだと思いますけど、今後の方向性のところに「休日の地域クラブ活動を開始させる」ということと、それから平日もきっと各学校で取組をしているんだと思うんですけれど、休日と平日の指導体制というあたりで、違う人材が指導している場合があるのかなと思うんですが、外部の人材が指導している、それから学校職員が指導しているという、その指導方針を何か共通理解する、そんな場がきっと推進委員会というやつなのかなと思って読ませていただいたんですが、その辺りはいかがなんでしょうか。

（相田学校教育課長）

推進委員会の委員の中で学校の教員、校長先生にも入っていただいているのと同時に、学校の外部指導者にも何人か入っていただいて、今おっしゃったように、平日と休日の指導の連携を図っているところです。あとは、学校の職員が兼職兼業で休日の地域クラブの指導者として参加をしたり、休日の指導者がたまに平日に時間が取れるときに学校に行って、顧問の先生と話したりということで、可能な限り積極的に連携を図るようにこちらも進めているところでございます。

（雲尾委員長）

ほかはいかがでしょうか。ありがとうございました。

では、２―（１）でございます。「特別支援教育の充実とインクルーシブ教育システムの構築」につきましていかがでございましょうか。

成果指標のところに解釈、説明がちょっと分かりにくいんで聞くんですけども、これは単純に 36％ぐらいなので、通級指導教室が 15 学級あったとすると、６学級が 13 人以下で、あとは 14 人以上だという意味ですか。

（相田学校教育課長）

おっしゃるとおりでございます。実際には今年度１教室増設をした 11 教室のうち、４教室だけが 13 人以下、残りの７教室が 13 人を超えているという状況でございます。

（雲尾委員長）

分かりました。

じゃ、そうすると、要は７教室について超え方が様々なので、優先順位をつけていくとして、そこに充てる人を増やすということは、そのためのお金というのはそもそも県から来ているのかどうかということと、もし県からお金が来たとして、そこに充てられる人はいるのかどうかという点を説明願えますか。

（相田学校教育課長）

市の予算の中でまず新設、増設のところについては予算を計上して、特に新しくする場合は様々な環境整備が教材も含めて必要ですので、予算を計上しております。

あと指導者という面で、通級指導担当者の年間を通して研修を受けた方が基本的には通級指導ができるということになっていますので、毎年１人ないし２人ずつその研修を受けてもらっているところですが、急激になかなか増やせないというのが今の現状でございます。

（雲尾委員長）

そうすると、来年度に 50％というところからいくと、１学級増やしたとしても、あと２つぐらいは増やさなきゃいけない、適切な数にしないといけないということですから、予算的には厳しいかもということですか。

（相田学校教育課長）

予定では６年度、７年度、１教室ずつ増設してこの目標にという予定だったんですけども、本年度、子供の人数が増えたということで、来年度２教室の増設ができるかどうかを今考えているところです。その予算の面と指導者の面とで考えているところです。

（雲尾委員長）

非常に厳しいなと思って、向かっているところが。分かりました。

ほかに御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、５ページ、２―（２）「いじめ、不登校対策の充実」につきましていかがでしょうか。

評価の文章の３行目なんですけども、評価Ｃ、３行目、「WEBQU の実施後直ちに結果の把握と学校、児童生徒、教職員で教育相談を行い」といった場合の学校と教職員はどう違うんですか。

（相田学校教育課長）

違わないので、「児童生徒と教職員で教育相談を行う」に変えさせていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

学校は取るということですね。

(相田学校教育課長)

はい。

(雲尾委員長)

分かりました。あと今後の方向性の３行目のところで「児童生徒が自分のペースで学習や心の安定を図れる環境を整えることで」といったときに、読み間違いはしないとは思うんですが、しかし一応このところだけ見ると、児童生徒が整えるになってしまうところもあるので、この文章は「児童生徒が」じゃなくて、「児童生徒にとって自分のペースでの学習や心の安定を図れる環境」といったような形で、誤解を招かない文章にしたほうがいいかなということでお願いします。

(相田学校教育課長)

そのように改めさせていただきます。

(阿部委員)

今後の方向性のところなんですが、WEBQU を更に効果的に活用するともに職員研修をするというようなことが書いてあるんですけれども、職員研修の中身として、WEBQU を活用して、恐らくいろんな児童生徒に対応するということになるのかなと思って読んだんですが、学級の経緯だったり、生徒指導の対応になるのかもしれませんけど、そういう辺りの研修とかは含まれているのでしょうか。

(相田学校教育課長)

令和４年度までやっていた WEBQU がつかないほうの Q-U だと、どちらかというと個人のものと、あと学級全体のものが２か月ぐらい遅れて届きました。WEBQU は即座にその状況が分かる、あと学級の今後こういうふうなところに力を入れて学級経営していくといいというような、その方向性もこの WEBQU が示してくれるようになっていますので、それを使いながら学校全体で学級経営、職員研修を進めていくということと、本年度は、子どもたちを迎える前に、まず１回学級づくりについて研修を先生方にしてもらいたいということで４月２日に教育委員会が主催をして学級づくり研修を行いました。

(雲尾委員長)

そのほかいかがでございましょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

６ページ、３―（１）「教職員の支援体制強化」でございます。これにつきましていかがでしょうか。

成果指標と目標値の成果指標の説明なんですけども、常態化する長時間労働の状況を評価するとあるけど、これは何かいいように取っているように見えるんですけども、これは縮減する方向に、この文章だと常態化をそのまま維持するような表現になっているかと思うので、どうなんでしょうか。

（相田学校教育課長）

改善の方向に向かうような言葉になるように検討させていただきます。

（雲尾委員長）

長時間労働の割合を縮減するとか、そういった表現に変えていただきたいと思うことと、これただ決まっている目標値なので仕方がないような気もするんですが、１％ずつの削減で果たして改善が進むのかなというのが非常に微妙な、この調子でいくと 30 年かかるみたいな話で、この数値はどうやって決めたんですか、１％ずつ下げるというのは。お願いします。

（相田学校教育課長）

令和５年度から７年度までの３年間で、まず策定時 41.4％だったものを、まずはとにかく減らしていくということで１％ずつにしたところです。８年度の目標値はまだ決まっていませんので、７年度の状況を踏まえた上で、また８年度以降の目標値を策定していきたいと思っております。

（雲尾委員長）

45 時間がまだこの状況ですと、なかなかこの先１％ずつしか減らないというのがあって、これはもう５％ぐらいずつ減らしてもいいぐらいだと私は思うんです。

更に言うと、今般改正があって、超過勤務の部分、４％から 10％まで１％ずつ上がっていくということになっているんですが、結局 10％まで上がったところでも、そもそも勤務時間の 10％ってどれぐらいかというと、週に 37 時間 45 分ですので、月で大体 20 日間勤務で 150 時間になるわけです。そうすると、その 10％って 15 時間しかないんです。45 時間をこうして認めているような状況ですと、つまり 30％増しで給料を割に合わないという状況なわけですということから考えると、今 45 時間というところが一つの目安になっていますけど、恐らく数年したら、多分これが 30 時間が目安になるだろうと思われるんです。だから、この減りようでいくと、次に 30 時間になったときには、もうとってもでないけど、間に合わないみたいな形になるかと思いますので、この設置自体はこれで進めていただくことはそれで仕方がないにしても、かなり思い切った施策を打たないと、残業が多い市町村というのはそれなりに先生方も把握していらっしゃいますので、そこのところで改善を図っていくことを進められることが必要だなと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他、３―（１）につきましていかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

・教育総務課の所管分について、野水教育総務課長（資料により説明）

（雲尾委員長）

ありがとうございました。では、教育総務課所管分につきまして、まず３―（２）、７ページの「良好な学校施設・設備の維持」につきましていかがでございましょうか。

これ次のページも共通で書き方は問題ないのですけれども、令和６年度中に実施した主な取組の一番下にあります「全市立学校（理科室除く）全特別教室空調設備設置工事」ですが、これ理科室除くというのは、既にあるということですね。

（野水教育総務課長）

さようです。先に理科室のほうを優先的に整備しましたので、そのように。

（雲尾委員長）

ただ、そのことを知っている人ばかりではありません。

（野水教育総務課長）

はい。

（雲尾委員長）

これを見たときに、こう書くと、理科室だけやっていないのかと思ってしまうので、全特別教室（理科室は実施済み）空調設備設置工事といったようにしていただいたほうが、今年度から見る人にとってはいいのかなと思います。

（野水教育総務課長）

御指摘を踏まえまして、修正させていただきたいと思います。

（雲尾委員長）

そのほか、３―（２）はよろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、続きまして、３―（３）、８ページの「学校施設等の機能強化」につきましていかがでございましょうか。

（阿部委員）

成果指標のところに無線LAN環境の整備計画を実施した割合ということで評価をしていらっしゃるんですけれど、毎年度100％、計画的に実施をしていると。トータルとしての整備状況はどのくらいになるんですか。

（野水教育総務課長）

令和６年度にこちらに記載の整備を行いまして、学校内で必要とされる場所には教室、体育館も含めまして、設置が完了したところでございます。その上で、既に整備したネットワークが実際に使用される際に、十分な速度が出ているのか等、その活用に当たっての

支障が出ていないのかといった視点からの確認が必要であるというふうに考えているところでございます。

（阿部委員）

そうすると、今年度からの指標、評価というところは、設置というよりも、今お話をいただいた環境の状況を把握して対応していくという、そういうことになるんでしょうか。

（野水教育総務課長）

こちらの目標設定をした当時は、まずはその整備が終わっていないところを確実にという視点でスタートをさせていただきました。おかげさまで、このように進めてくることができたところでございますが、今阿部委員御指摘のとおり、付いている場所とない場所があったところから、全部付いた状況になって、今度は実際の運用面で支障が出ていないかという視点に切り替えての評価に移ってまいります。そのため、この点の指標設定については、今ほどの御指摘も踏まえて、今後将来的な設備の維持、強化に当たって、どのような形がいいのか、ここは改めて考えさせていただきたいと思います。

（雲尾委員長）

そのほかいかがでしょうか。

令和６年度中に実施した主な取組の１行目は、先ほど言ったとおり、「（理科室除く）」自体を何年度で設置済みとか、そういったような形で表記してもらうということが必要かと思います。

２つ目のところですけれども、これ「校務用 PC と学習者用端末の２台を使用を１台」、これ「２台の使用を１台」ですか。

（野水教育総務課長）

はい。

（雲尾委員長）

その後なんですけども、そこは「児童生徒への迅速な支援や教職員及び児童生徒の基本データ等」と、これがつながってしまうと、何が何だかここで分かりにくくなるんです。そうすると、これは「や」ではなくて「児童生徒への迅速な支援が可能となり、また」というふうにして、別なことですよね、これ。ここは２つ、別々なことで分かれないと読み取りにくくなるということで、そういうふうにして、あとは「教職員及び児童生徒の基本データ等、自治体間連携の効率化と学校職員の異動時の研修等」に全部つながるということでよろしいですか、そういう解釈で。

（野水教育総務課長）

御指摘のとおりでございます。

（雲尾委員長）

分かりました。そのほか3―（3）、いかがでございましょうか。ありがとうございました。

・子育て支援課の所管分について、小林子育て支援課長（資料により説明）

（雲尾委員長）

ありがとうございました。では、9ページ、4―（1）「幼児教育内容の一層の充実」につきまして御発言ありますでしょうか。

（阿部委員）

今後の方向性の（1）の表現なんですが、教育委員会がこれを行うというふうに読み取れるんですが、それでよろしいんでしょうか。

（小林子育て支援課長）

こちらは教育委員会のほうで様々な研修会を実施して、各保育施設で保育の中で意識して、活動に取り入れていくというような形で考えているところであります。

（阿部委員）

例えば「体験活動は」云々と書いてあって、最後に「行き先や活動を工夫し実施する」と書いてあります。これは保育園とか保育所がやるということではなくて、教育委員会がこれをやるというふうに読み取れるんですが。

（小林子育て支援課長）

体験活動を実践する場面は保育園や幼稚園の現場でありますが、こちらの活動の内容や必要性についての研修会を教育委員会のほうで実践をしていくということを記載したものであります。

（阿部委員）

じゃ、研修会を通して体験活動はこうなるように指導していくとか、助言していくという意味合いでしょうか。

（小林子育て支援課長）

教育委員会の役割としてはそのように考えています。

（雲尾委員長）

教育委員会は直接活動を実施しないので、研修を実施して園と合致できるようにするというふうな文言を加えるということですね。

（小林子育て支援課長）

はい。

（雲尾委員長）

そのほかいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

では、10ページ、４―（２）「幼稚園・保育所（園）等と小学校の連携深化」につきましていかがでしょうか。

評価の（３）、最後の行に「学校全体として児の理解と支援の在り方の検討に努めた」、これが３種類の意味があるのですけれども、子どもの「子」なのか、個人の「個」なのか、児童なのか、これどういう「コ」でしょうか。評価の一番最後です。

（小林子育て支援課長）

子ども自身のことの「児」ということで表現したつもりであります。

（雲尾委員長）

児童ということなんですか。

（小林子育て支援課長）

はい。

（雲尾委員長）

じゃ、児童に直すということでよろしいですか。どうしますか。

（小林子育て支援課長）

幼児期は「児」という言葉をよく使うんですけれども、ちょっと分かりづらい表現でありますので、「児童」というふうな形で修正させていただきます。

（雲尾委員長）

それに、既にこれ小学校に入ってからの話ですね。

（小林子育て支援課長）

すみません、こちらは接続期、国でいうかけ橋期ということで年長から小学校１年生までを捉えて記載していたつもりでありますが、ただこれは引き継いだ小学校入学後の話になりますので、児童ということで表現させていただきます。

（雲尾委員長）

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、最終ページでございます４―（３）「家庭、地域と連携した育ちの支援の充実」に関していかがでしょうか。

（阿部委員）

今後の方向性の（１）番の最後の表現が「図った」という過去形になっています。図るなどに修正が必要だと思います。

（小林子育て支援課長）

大変失礼しました。「図っていく」というような形で修正させていただきます。

（雲尾委員長）

その次の表現なんですけども、「全施設で年少・年中においては家庭教育講座を行い」

という、この年少、年中だと子供自身に対して行うようになってしまうので、これは「年少・年中児保護者対象家庭教育講座」ということでいいですか。

（小林子育て支援課長）

年少児と年中児のときの保護者の方を対象とした家庭教育講座ということで修正させていただきます。

（雲尾委員長）

なおかつ、ここでお伺いしたいのは、全施設で行っていくというふうにあるわけですけど、そもそも今はどこもやっていないのか、どれぐらいやっているけど、全施設に広げるのか、それによって違うと思うんですけど、どうでしょうか。

（小林子育て支援課長）

家庭教育講座につきましては、今まで年長の時期は全ての施設で実施して、年少、年中については希望する施設のみで実施しておりましたので、今年からは全ての施設で年少、年中児のときにも家庭教育講座を実施していくということで考えています。

（雲尾委員長）

今まではおよそ何割ぐらいで実施していたということになりますか。

（小林子育て支援課長）

具体の数字が今ちょっと手持ちにないんですが、おそらく３分の１から半分ぐらいの割合になります。

（雲尾委員長）

なるほど。要は３分の１ぐらいで実施していた年少、年中児保護者対象講座を全施設に広げるという趣旨ですね。

（小林子育て支援課長）

はい。

（雲尾委員長）

分かりました。

そのほかいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

子育て支援課所管部分につきましても終了となりますので、議事の（２）については以上となりますが、全体を通してよろしいでしょうか。特に言い忘れた部分とかいいですか。次に進ませていただきます。よろしいですか。

---

８ 次回教育事務点検評価委員会の日程について

野水教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

〔日時〕令和７年７月 24 日（木）午前 10 時

〔会場〕三条市役所栄庁舎 201 会議室

---

7 閉会宣言　午後４時５分